

1959年、四方を山々に囲まれた自然豊かな熊本県人吉市で生まれた。父親は内科医、母親は看護師。3人きょうだいの真ん中で裕こまりがちな氣質を、小学校の先生が愛でてくれた。

7月の豪雨ではかなりの高さまで盛り土をしたのに床上浸水し、2回掃部し片代にました。それでも人吉はいい。帰るたびにきれいだと思えます。夏の思い出はクワカタやカブトムシ。

人間発見

早起きして一番集まる木を誰が蹴るかで競いました。ポタポタと音がして「おっきいの落ちたー」と。虫取り、川遊び、野球。これで毎日終わりました。

しっかり者の姉と、親にかわいがられる末っ子の弟に挟まれ、縮こまっていました。転機が訪れたのは小学3年生の時。算数のテストで僕だけが解けた問題がありました。難しいのを頑張りました。そつしたら先生がみんなの前で、解けたのは私

モテる大人に育てたい

花まる学習会代表 ^{たかはま}高浜 ^{まさのぶ}正伸さん



熊本県人吉市の豊かな自然の中、姉と弟がいる3人きょうだいの長男として育った（左が高浜さん）

「俺できる？」が転機 日記で向き合う自分

ただだ、と褒めてくれたのです。「俺、できる人？」。マイナス思考がプラスに転じました。次は小学校6年生の担任、高野先生との出会いです。ヒントをする学校一筋い先生から呼び出され「君は違う。熊本高校に行けるよ」と言われたのです。熊本高校は熊本県で一番の進学

校。「行けるわけない」と思いましたが、「2人で自習しよう」と言ってくれました。うれしくて舞い上がり、毎日自習しました。一通りの勉強はすぐ終わり、入試問題を解くことになりました。急に難しくなつたので「小学生向けじゃないと思います

てありますよ」と聞いたら「中学校の名前だよ」と。ラ・サール中の問題集だったので。当時は人吉一中と二中しか、知らなかったのです。

地元の人吉第一中学校に進学。生徒会長で、成績はトップ。周囲に愛められるものの、自分は偽っている、嘘くさいという意識にさいなまれた。本心は日記にぶつけ、自分をみつめ直した。

中1の時、全県実力テストで1番を取りました。偏差値が90いくつで「何で100じゃないんですか」と聞きました。偏差値が分からなかったのです。その後、だんだん70台後半になつてきて、俺も頭が悪くなつたなと思つたのです。

中学1年生の頃から日記をつけ始めました。自分の本当の気持ちを確認し、嫌な自分にも向き合うためです。周囲に褒められても自分は違う。生徒会長になつても何も変えられない。一緒にスカートめくりがしたいけど友達を注意する自分……。モヤモヤした気持ちを吐き出すことですっきりし、自分の頭で考え、物事を整理できるものになりました。本当は女子とヒートルズが好きだった。20代まで続けた日記を見ると分かります。

今思えば、実はこれは最高の英才教育です。しかも高野先生は自然な形で主体的に取り組めるように促してくれました。カタカナで何か書いて